

授業科目

人間と生活の科学

担当教員名 澤井 セイ子	対象学年	1	対象学科	健栄
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	○	

授業の概要

健康維持の基盤となる食行動が営まれている日常生活に関する研究の視点をふまえて、身近な日常生活、特に私的生活領域において展開される家族・個人の日常生活の様態の特質を明らかにする。私的生活領域における生活主体と生活資源との関係性を投影する日常的な生活様態の変遷について構造的に把握する。さらに、現代の日常的な生活の営みのあり方について考える。

授業の目的

1. 人間にとっての「働くこと」「暮らすこと」から成り立っている生活の営みを構造的に理解する。
2. 生活事象の時空間の変化を構造的に考察して、その多面性・意味性を理解する。
3. 特に自由裁量しうる私的生活領域における生活主体の生活活動について理解する。
4. 「暮らすこと」にかかわる生活資源（金銭・食住衣などの生活物資・社会システムなど）の有機的な利用による日常生活の営みの多様性を理解する。
5. 生活の営みのWell-beingについての考えを構築する。

学習目標

身近な日常生活の営み、特に自由裁量しうる私的生活領域を中核とする生活の営みについて、具体的に、多面的・分析的に、時空間的に、理解する。現代の身近な日常生活の営みのあり方について、主体的・分析的、かつ統合的に考える。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	オリエンテーション	日常生活の営みの研究が具体性・実践性・予防性をふまえて成立していることを前提として、授業の目標・概要などについて説明する。	澤井 セイ子
2	生活研究の視点（1）	演習：自らの生活の営みを客観的にとらえるために、自らの生活の営みの履歴を把握し、自らの生活に対するイメージを作成する。そのうえで、他の受講者の生活イメージと比してその異同について把握する。 その結果をコミュニケーションペーパーとして提出する。	澤井 セイ子
3	生活研究の視点（2）	講義：19世紀中期に始まったアメリカの生活の営みの研究であるEuthenics=Home Economicsの研究および同時期のヨーロッパでの日常生活の営みの教育の必要性についての情報交換窓についての資料から生活研究の視点を理解する。	澤井 セイ子
4	生活構造（1）	講義：生活の原初的な構造から生活活動を考察する。生活の営みにおける要因と活動から生活の枠組みを理解する	澤井 セイ子
5	生活構造（2）	演習：DVD「ロバート・イーズ」の視聴を通して、日常生活の営みを疎外する要因を把握し、日常生活が地域社会の中で営まれていること、地域社会のあり方が生活の営みに影響することを理解する。 その結果をコミュニケーションペーパーを提出する。	澤井 セイ子
6	生活主体としての家族（1）	講義：典型的な生活共同体としての家族と生活の営みとの関係を考察する。家族の生活の営みの特質を理解する。	澤井 セイ子
7	生活主体としての家族（2）	演習：DVD「誰も知らない」の視聴を通して、生活共同体としての家族とそのメンバーとの関係性を理解する。その結果をコミュニケーションペーパーとして提出する。	澤井 セイ子
8	生活主体としての個人（1）	講義：個人の生活の営みを構造的に理解する。現代社会では、個々人が生活の営みにおいて自立することが求められている状況を踏まえ、生活の営みにおける自立の内容を理解する。さらに、個人の生活の営みへの支援について考察する	澤井 セイ子
9	生活主体としての個人（2）	演習：DVD「アイアムサム」の視聴を通して、生活の営みを自立して行うことが困難な人々に対する地域社会における支援のあり方について考察する。その結果をコミュニケーションペーパーとして提出する。	澤井 セイ子
10	生活資源	講義：生活資源の概念を理解する。生活資源を獲得する方法の時空間的な変化について把握し、現代社会における生活資源の特質を理解する。	澤井 セイ子
11	生活様態の変容（1）	講義：生活構造の視点から農業化社会から工業化社会へ、さらには情報化社会における生活の営みの移り変わりを、生活行動および生活要因別に把握する。	澤井 セイ子

12	生活様態の変容（2）	講義：第二次世界大戦後の日本の日常生活の営みの移り変わりについて、私的生活領域における「暮らすこと」を中心として、把握する。	澤井 セイ子
13	生活経営（1）	講義：経営体の原初的構造を理解し、生活経営体における監理・管理・作業の3部門それぞれの内容を分析する。さらに、3部門別に時空間的な変化を把握する。	澤井 セイ子
14	生活経営（2）	講義：現代社会における生活経営のあり方に影響を与える状況について理解し、生活経営能力として必要な資質を考察する。	澤井 セイ子
15	生活の営みのWell-beingとは	生活の営みのWell-beingについての考えを構築する手がかりとして、現代社会における日常生活の営みを自立して行おうとするときに必要となる社会的システムについて考察し、それをコミュニケーションペーパーにして提出する。最後に、レポート作成の目的・課題などについて説明する。	澤井 セイ子

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書	現代生活論	松村 祥子、岩田 正美、宮本みち子	有斐閣	1999年		
	消費社会の家族と生活問題	岩田 正美	培風館	1997年		
	生活を創るライフスキル 生活経営論	内藤 道子、中間 美砂子、金子 佳代子 他	建帛社	2002年		
	21世紀 ライフスタイル革命 生活文化を軸にした経済・社会の創造	板東 慧	珪藻書房 2002			
その他の資料	教室内にて配布する					

評価方法

レポート
コミュニケーション・ペーパー

履修上の留意点

1. 「日常生活の営みとは、どのようなことか」「“生活者”とは、誰なのか」「食行動は、日常生活の営みにおいて、どのように位置づけられるか」などについて、具体的に考えながら、積極的に受講してください。
2. 自らの生活体験を客観的に直視・熟視して、日常生活の営みの多様性について、時空間的に考えてください。
3. レポートおよびコミュニケーションペーパーは成績評価を終えてから、返却します。

オフィスアワー・連絡先

授業内容の質問・相談がある学生は、所属学科・学年・学籍番号・氏名・用件を記入の上、授業担当者（sei_sawai@ybb.ne.jp）または、office-hour@nuhw.ac.jpへご連絡ください。